

B-26 博多織に関する研究(第3報)木附子及び水溶性タンニン酸媒染生糸に対する金属塩の影響について

香蘭女子短大 O 萩原すみ子 藤瀬タツ子 筒井亮毅 坂根嘉子

目的 第2報においては水溶性タンニン酸媒染生糸の増量及び物性について検討を行ったが、本報においては、木附子媒染生糸及び水溶性タンニン酸媒染生糸に対する、各種金属塩の影響について、比較検討した。

方法 濃度17%の木附子溶液と水溶性タンニン酸溶液に0.1Mの各種金属塩を加えて、約1gの生糸を浴比30:1で1時間、98±1°Cで浸漬後、冷却し、30°Cでさらに20時間振盪し、処理した生糸を軽く水洗後、常温風乾して試料とした。これらの試料につき、増量率、強度、伸度、ヤング率などの物性を測定した。

結果 増量率については、木附子溶液、水溶性タンニン酸溶液に同時に金属塩を加えた場合、塩化カルシウム、塩化マグネシウム、塩化バリウム、塩化第一銅、塩化亜鉛、硫酸第一鉄、硫酸亜鉛等に増量がみとめられた。同じ17%の木附子溶液、水溶性タンニン酸溶液と比較した場合、媒染生糸の増量は約3〜7%程度、木附子の方が大となった。強度については、硝酸アルミニウム、酢酸鉛等が効果を示し、他の金属塩については、木附子媒染、タンニン酸媒染、ともにあまり変化はみとめられなかった。伸度については、硫酸銅、塩化マンガン等が比較的高い値を示した。ヤング率については、塩化カルシウム、塩化マンガン等が比較的高い値を示した。また木附子媒染、タンニン酸媒染生糸のみの場合よりも金属塩を加えた媒染生糸が強い傾向を示した。